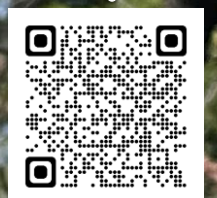


2024
4

新潟県拠点 情報かわら版

- 県内の耕畜連携の取組紹介
～実際に取り組まれた皆さんに感想を伺ってみました～・・・P2
- 「飼料自給率向上緊急対策事業」をご活用下さい・・・P3
- 土壌成分の徹底管理で化学肥料・化学農薬を使わない農業を実現
～関根農園（新潟市江南区）～・・・P4
- 令和5年度「飼料用米多収日本一」における
北陸農政局長賞受賞者の決定について・・・P5

電子版はこちら
👇



新地方参事官 着任のご挨拶

新潟県の皆さま、はじめまして。
令和6年4月から新潟県拠点地方参事官となりました、
田口将之と申します。出身は静岡県富士宮市です
(富士山、白糸の滝、焼きそば、キャンパーの
聖地・・・など)。



田口 将之 地方参事官

前任地は、秋田県担当の地方参事官でしたので、
「特急いなほ」に揺られて、ご当地に参りました。

国内では人口減少、少子・高齢化等の影響もあり、お米の消費は減る中で、
本県では、需要に応じたお米の生産はもちろんのこと、園芸生産の取組拡大、
多様な農林水産物の生産、「新潟」という既存のブランド力もありますので、
付加価値の高い農林水産業の実現を県拠点としても応援してまいります。

令和4年市町村別農業産出額(推計) ～米部門は新潟市、長岡市、上越市の順で全国上位独占～

農林水産省で、令和4年市町村別農業産出額(推計)を公表しました。
また、北陸農政局では、北陸4県の農業産出額を図や統計表で分かりやすく
整理した資料を作成しました。

新潟県においては、新潟市、新発田市、村上市の農業産出額が200億円
を超え、米のほか野菜や畜産部門の割合も高くなっています。また、米部
門は新潟市、長岡市、上越市で全国上位を独占しています。

【新潟県の農業産出額上位5市町村】

順位	市町村	農業 産出額 億円	部門別割合			
			1位	2位	3位	
1	新潟市	534.8	米 55%	野菜 27%	果実 8%	
2	新発田市	235.5	米 39%	鶏卵 26%	豚 17%	
3	村上市	208.6	鶏卵 51%	米 26%	豚 11%	
4	長岡市	172.1	米 80%	野菜 9%	肉用牛 3%	
5	上越市	160.3	米 80%	野菜 8%	鶏卵 6%	

【米産出額上位5市町村(全国・北陸)】

部門	全国 順位	北陸 順位	市町村	農業 産出額 億円
米	1	1	新潟市(新潟県)	292.9
	2	2	長岡市(新潟県)	137.3
	3	3	上越市(新潟県)	127.8
	12	4	新発田市(新潟県)	91.7
	14	5	富山市(富山県)	79.7

北陸農政局作成資料は以下のURL又は右の二次元バーコードからご確認ください。

https://www.maff.go.jp/hokuriku/stat/data/hokuriku_tyousakekka.html

統計データについては以下のURL又は右の二次元バーコードからご確認ください。

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sityoson_sansyutu/index.html



県内の耕畜連携の取組紹介

～実際に取り組まれた皆さんに感想を伺ってみました～

世界的な食料情勢の変化を受け、これまで原料の多くを輸入に頼ってきた肥料や飼料の価格が高騰し、耕種・畜産農家双方の経営を圧迫しています。

このため、農林水産省では、①畜ふんなど国内資源の肥料としての有効活用と②国産飼料の生産・利用拡大を図るため「耕畜連携」を推進しており、新潟県内でも耕畜連携の取組が広がっているところです。

実際に取り組まれた皆さんに、感想を伺ってみました。

(株)中越スパローズ (三条市)

水田60haを経営。国の事業を活用して機械を導入し、R5年産から稲WCSの生産を開始。酪農家4戸へ供給。

(中越スパローズ)

- ・米・大豆に稲WCSを加えたブロックローテーションを行うことにより、作業量が一年を通じて平準化され、通年雇用が可能となった。
- ・大豆→稲WCS→米の順に栽培することで、大豆後の肥効による米の倒伏防止が期待できる。また、肥料設計も容易になる。

(中越スパローズから稲WCSを購入した酪農家)

- ・粗飼料の全量を輸入牧草に頼っていたが、価格が高騰し、経営を圧迫。
- ・10年ほど前に稲WCSを試したが、当時は品質が悪かった。ロール型の飼料を使ったことがなく、給餌作業にも懸念があった。
- ・中越スパローズの稲WCSは、牛の嗜好性も良く、給餌作業も特段問題なかった。飼料代も軽減できたので、R6年産からは購入量を増やす(うち1戸は粗飼料全量を稲WCSに切り替えるとのこと)。



稲WCSの収穫(R5.8.3)



稲WCS給与(R5.11.27)

新発田コントラクター (新発田市)

近隣の耕種農家3戸と酪農家2戸が連携し、飼料生産とたい肥の圃場還元に取り組む組織を結成。R5年産から、稲WCS、飼料用とうもろこし、ライ麦の生産を開始。

(耕種農家)

- ・地域から多くの水田を任せられ経営面積が拡大する中、主食用米とは植付け・収穫時期が異なる稲WCS等の導入で作業時期を分散できた。
- ・堆肥の活用により肥料代が軽減でき、稲WCSは乾燥調製が不要で燃料代や電気代がかからないなどメリットが多い。

(酪農家)

- ・輸入飼料が高騰する中で飼料費を削減することができた。
- ・稲WCSを給与することで、乳量が増えたり、受胎率が向上するという予想外の効果もあった。
- ・これまで処理に困っていた堆肥を使ってもらえて助かっている。



青刈りとうもろこしの収穫(R5.8.25)



青刈りとうもろこし給与(R5.11.20)

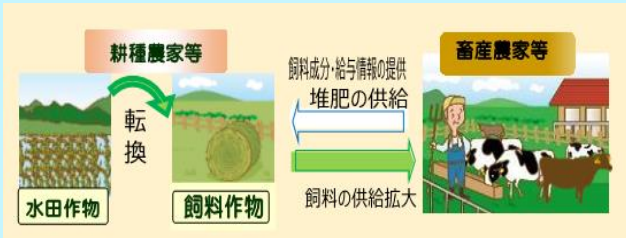
関連事業を次のページで紹介しています

「飼料自給率向上緊急対策事業」をご活用下さい

農林水産省では、国内の飼料生産を強化するために、**耕畜連携による国産飼料の供給・利用拡大、飼料生産組織の規模拡大、中山間地域における飼料増産活動、国産飼料の販売拡大・広域流通体制の構築**等を支援する事業の公募を4月に予定していますので、事業を活用した飼料生産の拡大についてご検討ください。

① 耕畜連携国産飼料利用拡大対策

- 畜産農家による飼料利用拡大に助成
- 耕種農家による機械の導入を支援（1/2）
（稲WCS、飼料用米は対象外）



② 飼料生産組織の規模拡大等支援

- 作業機械、飼料運搬車、堆肥散布車、簡易倉庫の導入を支援（1/2）
- 稲WCS生産も対象（飼料用米生産は対象外）



③ 新飼料資源の利用拡大

- 飼料として活用されていない農場残さ等を飼料に利用するための機械（粉碎機、攪拌機、乾燥機、搬送ライン等）導入を支援（1/2）
- 成果目標は、3年以内に供給量を増加



④ 中山間地域飼料増産活性化対策

- 中山間地域の飼料生産、放牧、草地の獣害対策等に必要経費や機械導入を支援（1/2）
- 成果目標は、5年以内に単収5%以上増加、面積5%以上増加、50a以上の拡大のいずれか



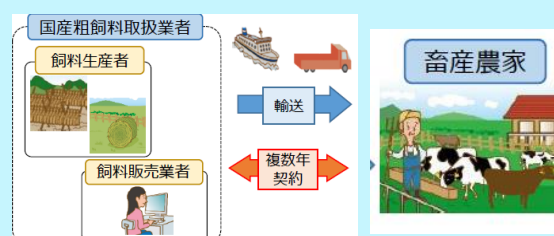
⑤ 広域供給対策

- 品質表示を行い国産飼料の販売拡大を行う生産者に奨励金を交付
（稲WCS、飼料用米は対象外）



⑥ 流通体制の構築

- 広域流通（50km以上）の国産粗飼料利用拡大分に対し輸送距離に応じて助成
- 稲WCSも対象（飼料用米は対象外）



飼料関係予算の情報は以下のURL又は右の二次元バーコードからもご覧いただけます。

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/shiryo/jikyuu_siryu_yosan/siryuu_kannkei_yosann.html



興味のある方は、北陸農政局新潟県拠点地方参事官室までお問い合わせください。

土壌成分の徹底管理で

化学肥料・化学農薬を使わない農業を実現

～関根農園(新潟市江南区)～

農林水産省では、「みどりの食料システム戦略」(以下、「みどり戦略」)を策定し、調達から生産、加工・流通、消費までの各段階における環境負荷低減の取組を推進しています。今回は、みどり戦略に関連して、新潟市江南区で環境に優しい農業に取り組んでいる「関根農園」さんを紹介합니다。

関根農園の概要

- ・ハウス9棟、露地200aで園芸作物を30品目以上栽培
- ・農産物はすべてBLOF(ブロフ)理論に基づいて緻密に計算された土壌管理により、化学農薬・化学肥料を使わずに栽培
- ・県外食品関連業者等の要望に基づき栽培品目を決定
- ・契約数の2～3倍の量を生産し、県内スーパー等にも出荷している



BLOF(ブロフ)理論とは、

3つの分野に分けて科学的かつ論理的に営農していく栽培技術

- ①アミノ酸の供給：アミノ酸(炭水化物+窒素)を供給し、光合成で作った炭水化物を病害虫に抵抗できる植物のカラダづくり、栄養の生成に活用させる
- ②ミネラルの供給：土壌分析の結果に基づき、植物の生育に必要なミネラルを適切に施肥する
- ③土づくり：太陽熱養生処理(マルチを使い積算温度UP)により、土壌に団粒構造をつくとともに、病害菌や雑草の種子を死滅させ、病気の発生等を防ぐ

関根農園の取組の特徴

栽培面では、土壌分析に基づき肥料成分を細かく管理しているため栽培に失敗が少なく、収量の予測が立てやすいことが特徴。また、太陽熱養生処理により雑草が生えにくくなるため除草作業のコストを削減でき、硝酸を含む化学肥料を使わないため葉や茎の硝酸に集まる害虫の被害が抑えられ、防除の必要も少なくなるそうです。



品質面では、オーガニック・エコフェスタの栄養価コンテストで、最優秀賞を取るなど、高栄養価な農産物を生産しています。市内の保育園からも栄養価が高くて美味しいということで要望があり、給食用に野菜を提供しているそうです。

新潟県内でも環境に優しい農業の取組が少しずつ広がってきています。皆さんも有機栽培の農産物等を見かけた際には、ぜひ購入して食べてみてください。

農林水産省では、みどり戦略に基づき、各種事業による支援や、環境負荷低減の「見える化」、J-クレジット制度等の取組を行っています。詳細はこちらをご覧ください。→

↓
<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/index.html>



令和5年度「飼料用米多収日本一」における 北陸農政局長賞受賞者の決定について

農林水産省及び一般社団法人日本飼料用米振興協会が実施する「飼料用米多収日本一」は、飼料用米生産農家の生産に係る技術水準の向上を図ることを目的として、生産技術の面から先進的で他の模範となる飼料用米生産者を表彰し、その成果を広く紹介するものです。

全国表彰と併せて、北陸地域での取組が優秀な経営体に対して、北陸農政局長賞として表彰しており、令和5年度は全国表彰北陸ブロックに参加申込のあった中から新潟県の2経営体が受賞しました。

【単位収量の部】

大沼生産組合 組合長 金安 秀雄 氏（新潟県長岡市）

【地域の平均単収からの増収の部】

渡邊 忠雄 氏（新潟県阿賀野市）

詳細は以下のURL又は右の二次元バーコードからご覧ください。

<https://www.maff.go.jp/hokuriku/news/press/seisan/240315.html>



（編集後記）～担当が代わりました！～

皆さんこんにちは！4月から新潟県拠点に着任しました大島です。これから新潟県拠点の広報紙「かわら版」を担当いたします。

皆さんに、タイムリーかつ効果的な情報発信ができるよう努めますので、どうぞよろしくお願いたします！5月からはYouTube発信も予定しておりますのでお楽しみに★



北陸農政局新潟県拠点では、「現場と農政を結ぶ」業務を通じて、地域の皆様にタイムリーに農政に関する情報をお伝えするとともに、農業現場の抱える課題や農政に対する意見をきめ細かに汲み上げ、各種施策につなげていくこととしています。

地域の農業者（地域の担い手や若手農業者、女性農業者など）の方の集まり等で、「農業施策の〇〇について聞きたい。」といったご要望がございましたら、直接伺ってご説明いたします。

ご遠慮なく、お気軽に下記へご連絡ください。

北陸農政局新潟県拠点地方参事官室

〒951-8035 新潟市中央区船場町2-3435-1

TEL 025-228-5216

ホームページ <https://www.maff.go.jp/hokuriku/nousei/niigata.html>

